

平成29年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」



事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 京都市 】

1 実践テーマ	【Ⅲ】
2 実施対象者	京都市立松尾小学校 6年生112名（育成学級4名含む） 4年生1名（育成学級 ※普段車椅子にて生活）
3 展開の形式	（1）学校における活動 ① 教科名（ ○ 総合・道徳 ） ② 行事名（ ） ③ その他（ ） （2）地域における活動 ① イベント名（ ） ② その他（ ）
4 目標 （ねらい）	障害についての理解と認識を深める。 共に生きていこうとする態度や心情を育てる。
5 取組内容	1 事前に行った授業 (1) 車いす体験と介助体験 車いすに、2人1組で「乗る」と「押す」の両方を体験。車いす用のゆるい上り坂と下り坂があり、特に下る時に向きをかえる方が、恐怖心がないことが分かった。また、砂地は進みにくいことや、段差や狭いところは、なかなか困難であることを実感していた。振り返りシートには、経験したからこそわかったことを書いていた。 (2) DVD視聴「車いすを翼にかえた男～パトリック アンダーソン～（42分）」 車いすバスケットボールのDVDを視聴した。パラリンピックでやっている・・・など、聞いたことはあるが、どのようなものかは、実際に映像でも見たことがない子が多かったので、その迫りに圧倒されていた。これを見たことによって、より興味が高まった。 (3) 当日（10月10日） ① 選手・コーチの紹介 ② 車いすバスケットの紹介 ③ 車いす体験 9コース



	<p>④ 車いすバスケット 3 試合 ⑤ 選手のお話 ⑥ 記念撮影</p>	
<p>6 主な成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・事前に行った、2つの授業が効果的だった。障害への理解と、車いすバスケットへの興味が高まったように思う。 ・普通の車いすと競技用の車いすとは、幅や重さ、形など、様々なところに違いがあることに気づけた。 ・実際に乗ったことで、その操作の難しさを実感出来た。 ・車いすバスケットを存分に楽しんだことで、障害がある方も自分たちもつながれたという気持ちが強くなった。 ・最後に、選手のお話を、じっくりと聴けたのがよかった。なぜ、事故になったのか、いつ何どき、誰に起こるのかわからないということや、バスケットを通して明るく前向きになったという選手の生の気持ちに触れたことが、自分も前に進んでいこう、がんばろうという気持ちになったと、ワークシートにも記述していた。 ・育成学級に在籍する全盲の児童が、授業後選手と話したい希望があり、話す機会を設けた。障害の種別は異なるが、共に同じ社会で障害を抱えながら生きている者として、励ましたり、これからのことを話したりと有意義な時間となった。 	
<p>7実践において工夫した点(事業の特色)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学習を取り入れたこと。 ・車いすバスケのメンバーを男女混合にしたこと ・6組さんも一緒に行ったこと ・他学年の車いすを利用している、育成学級の児童とその保護者にも参加を呼び掛けた。 	
<p>8主な課題等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・最後の質問時間が足りなかったこと。 ・島津アリーナでの車いすの貸出と返却の時間が、午後 1 時～3 時までかつ、教員が立ち会わなければならない。そのため、朝に車いすを借り、夕方に車いすを返却することができない。運送会社への手配が二日間になってしまう。 ・体育館の位置が二階なため、選手控室から体育館までの移動で、階段介助の人数が最低4名は必要。 	
<p>9来年度以降の実施予定</p>	<p>もともと5年生も実施希望していたが、予算の関係で今回は6年生のみとなった。当日も、5年生が興味深く競技用の車いすをみていたり、選手と関わりを持とうしたりしていたので、ぜひとも来年度も実施したい。ただし、学校単独で実施するには、車いすの運搬等の実施にかかる費用が高い。今回と同じ制度を利用して。</p>	

